

# 小学校・義務教育学校前期課程

## 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

### I 調査の概要

#### 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査の対象

小学校第6学年及び義務教育学校第6学年の児童

#### 3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
- (2) 児童質問紙調査  
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

#### 4. 調査日時

平成31年4月18日（木）

1時限目	2時限目	2時間目終了以降
国語	算数	児童質問紙

#### 5. 調査実施学校数等

調査実施学校数	対象者数
8校	323名

### II 学力調査の結果【小学校】

#### 1. 教科に関する調査結果（平均正答率※）

	国語	算数
全国	63.8	66.6
広島県	66	68
府中市	71	69

平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

## 2. 調査結果にみられる府中市の特徴

### 【国語】

正答率 上位2問				正答率 下位2問			
問題		市	全国	問題		市	全国
読	◇目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む	93.2	88.5	言	◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	37.4	35.6
読	◇目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む	84.2	80.7	書	◆目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	42.6	28.8

学習指導要領の領域等

話聞：話すこと・聞くこと

書：書くこと

読：読むこと

言：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 【算数】

正答率 上位2問				正答率 下位2問			
問題		市	全国	問題		市	全国
数量	◇棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる	95.2	95.2	数	◆示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	32.6	31.1
数	◇示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる	86.8	81.8	量	◆示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる	48.4	43.9

学習指導要領の領域等

数：数と計算

量：量と測定

図：図形

数量：数量関係

### 3. 今後の指導改善策

	指導改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立場を選んで書く活動を取り入れたり、形式や書き方を提示したりすることで、自分の考えを文章に表現することに慣れさせる。低学年には、数字を指定して一定量の文章を書くことに慣れさせておき、徐々に内容の条件を加えても書けるようにしていく。また、どの学年においても文の成分を意識して毎日少しずつ書かせる活動を仕組んでいく。</li> <li>・ さまざまな場面（各教科、調べ学習、新聞学習等）で、目的に応じて情報を取捨選択して、自分のことばで表現し、評価し合う指導を行う。</li> <li>・ 低学年：漢字の字形と具体的な事物（実物や絵など）とを結び付けるなどの指導を工夫し、漢字に対する興味や関心を高められるようにする。また、漢字単独の読みだけではなく、文や文章の中で漢字を読むことを大切にして、文脈の中での意味と結び付けていくようにする。</li> <li>・ 中学年：漢字辞典の使い方に慣れてきたら、自分で新出漢字の読み方や意味などを調べる活動を取り入れる。文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、当該学年の前の学年までに学習した漢字を意識して使ったりする習慣を付けるように指導する。</li> <li>・ 高学年：文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導する。特に、同音異義語の学習指導に当たっては、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な情報をどのように使うか適切に選ぶなど見通しをもたせて問題に取り組ませる。</li> <li>・ 日常生活の事象と関連させ、効率的に処理できる考えのよさや働きに気付かせる。</li> <li>・ どのように求めたのかを算数用語を使ってわかりやすく説明する活動を仕組む。（ノートに書く・対話を通して説明する等）</li> <li>・ 全学年において、適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見出し、表現することができるようにする。</li> <li>・ 全学年において、色板などの具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感性を豊かにすることを大切にする。その際、図形の性質や構成要素に着目して考察することができるようにする。</li> <li>・ 単元末テストおよび標準学力テストの結果を検証し、指導方法の工夫改善を図る。</li> </ul>

### Ⅲ 学習状況調査（児童質問紙）の結果

#### 1. 肯定的な回答の割合が、全国平均を上回っている設問（上位2問）

(%)

質問項目	府中市	全国	差
◇今住んでいる地域の行事に参加していますか	88.7	68.0	+20.7
◇日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いませんか	86.5	76.1	+10.4

#### 2. 全国平均と比較して課題の項目（下位2問）

(%)

質問項目	府中市	全国	差
◆人が困っているときは、進んで助けていますか	86.1	87.9	-1.8
◆ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	93.6	95.2	-1.6